

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。

短歌

末武 有二 選

春迎え発表会待つ孫悔しみんな中止だコロナのやつめ
 何かもコロナのせいで狂い出す高齢者にも被災は多い
 宮園 島 みつき
 新型コロナウイルスに散らばった令和の春に厳しい試練
 赤井 増岡 伸禧
 ばあちゃんに生まれた子牛毛掛け添い寝のテレビまぶたが潤む
 古閑 井上てつ子
 朝日受け薄雲美しき彩の帯「彩雲」ならむ立春の朝
 安永 守住 孝子
 沈丁の香りたち来る縁側に夫と若き日懐かしみており
 惣領 島田 廣子
 かねてより最後は家と言ひし母かなえてやろう連れて帰りぬ
 木山 本田 龍子
 春風に桜菜の花香り立つ届けてやりたい病める友にも
 宮園 今吉マキ子
 庭先の枯れ葉除けば赤き芽の山芍薬は春の序曲か
 安永 川野 光子
 忘れてた植えた我より水仙が季節が来たと庭で呼んでる
 寺迫 西坂ヨシ子
 散歩道赤白色に家々の庭よりのぞく春告げ花は
 宮園 金子フム子
お願い 漢字にはふりがなを記入してください。一枚のハガキに、部門(短歌、俳句、川柳)が異なる作品は併記しないでください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

俳句

河野 全平 選

初市や春とあがなふ人多し
 真つ先に菜飯大盛り父の碗
 申告を済ませ今年も春が行く
 春の宵学童絶えし通学路
 春めけば明るい色を着て歩く
 仏壇へバレンタインのチョココレート
 春日遅々カフエでも寄って帰ろかな
 コールベル胸に重たき春の夜
 夕刊や梅の香ほのか門扉閉づ
 一句鑑賞
 灯に淋し都忘れの色失せて
 赤井 増岡 伸禧
 古閑 今村 恒心
 宮園 今吉マキ子
 新外 西田 正巳
 広崎 松原まゆみ
 惣領 阪口由美子
 古閑 井上てつ子
 木山 山口サツキ
 田原 辻ヶ峰子
 稲畑 汀子

川柳

布田川左門 選

『お題』 猪(しし)・いのしし
 竹の子を荒らしに荒らす猪の群れ
 ししが増え共存できる村はない
 植えたばかりの種イモ一夜で食われけり
 竹林まゆみ
 ハンター伸禧
 呆然与作

3月号の川柳の自由詠参考例において、不適切な表現がございました。深くお詫び申し上げます。

益城の文化財
 町文化財保護委員会

掘城発
 益城

益 城 町

益城町の人工水路

今月は、町にある7本の人工水路を紹介しします。

①飯田山の門前村があつた所に、フナゴさんという水源がある。その湧水を導水し、矢谷にトンネルを造り、そこから水路を造り、途中で雨水を集めたため池が何力所もできている。文化2年(1805年)から天保13年(1842年)のため池工事終了まで、2万人の労力と、37年の歳月を費やしたとある。それらが今日も木崎原や土山の水田を潤している。土山の椎の木迫堤には地元の人たちによって、その功をたたえる衛藤地蔵が建立されている。



②木崎のそうめん滝の湧水を利用